

種子島の歴史・文化・自然について。

テーマ: (種子島 移住の歴史)


写真やイラスト及びその説明 / 場所 (地図上に書き込み, 説明を書く)

※ 注意...単なる引き写しではなく、オリジナリティーを追究し、面白い内容を目指すこと。

種子島 → 「移住の島」 (たくさん土地から移住して来た人が多し。)

特に、明治以降の移住は、現在の地域社会に直接関わっている。

(主な移住者の出身地)

① 甑島  約435世帯 (薩摩半島の西右にある、30の島からなる島。平地が少なく、起伏が激しい。)

年に1度しか耕作できない土地の悪土 + 虫害 + 台風 → 大飢饉

明治19年、県令により、種子島への 大規模移住計画 が始まる。

移住者は何世帯かにひとりにまとめられ入植した (平均22世帯が1人。)

移住者の間で「天然痘」が流行。分散入植により、被害はおさえられた。青森の「なまはげ」に似た「トシジマ」はこのとと島に伝わった。(中野、野本平)


種子島の人々は、移住者にやさしく、食糧や農具、田畑などを貸していたという。

② 静岡県  約10世帯 (茶の名産地。富山、伊豆半島などの自然が有名。)

甑島移住の世話係兼初代熊毛郡長 牧野篤好 の紹介のもと、

「寒暖差が大きい種子島は茶の栽培に適している」として 古田地区 また、林業、炭焼きに着目し、「八ゴの自生郡塔」に遊歩道を作ったりと島への見返し。

現在でも古田地区は茶が名産で、「八ゴの自生郡塔」は島内外で有名。

③ 桜島  約340世帯 (鹿児島島のシンボルとして有名。毎日噴火をくりかえしている。)

大正三年に「大正大噴火」が起き、たくさん被害がでた。

2か月後、10回にわたり、約340世帯が移住を開始。

西之表市の古田、国上、安城に移住者が多かった。

地元民は彼らをたすけ、励ましてくれたそう。その人たちの協力により

鴻峰小学校 (H27廃校) が設立される。

遠く離れた桜島を思い、月讀神社の分社と中割りに建てた。

移住者が種子島にもたらしたものは多く、「宇納様踊」や「古田分師子舞」も実は島外からもたらされた芸能。

<現在の移住者>

井ノ元など、島の魅力にひかれて移住する人が多く、地域おこしに貢献している。

<まとめ>

鉄砲伝来の時のように、種子島の人々は情に厚く、寛容な心を持っており、昔から今にいたるまで、いろいろな所からの移住者を受け入れ、これに見返りするよう島発展に貢献してきた。

タイムテーブル

明治 19年 甑島移住開始

20年 天然痘流行

44年 静岡から移住

大正 3年 大正大噴火 (19月)

移住開始

鴻峰小設立

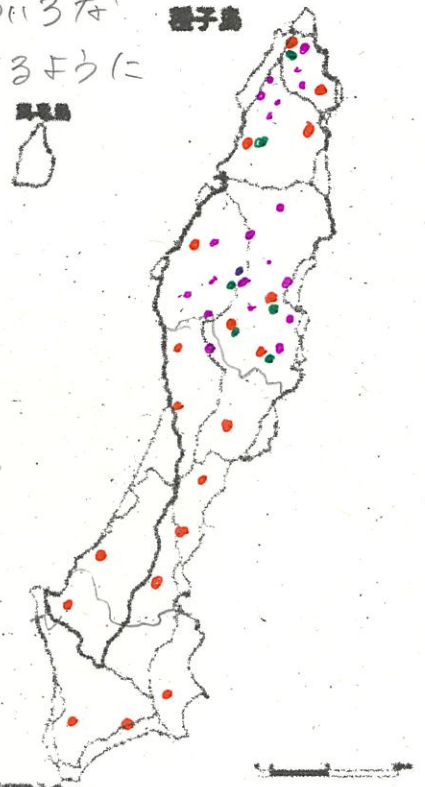
(内訳)

● 甑島

● 静岡

● 桜島

● 移住記念碑



※ 参考文献/出典 (著者名, 書名, 出版社名, 出版年), HP (サイト名, URL)

(例) ・井元正流『種子島』(春苑堂出版, 平成11(1999)年)

・西之表市役所HP (<http://www.city.nishinoomote.lg.jp/admin/index.html>)

・明治期の種子島移住史 (西之表市教育委員会, 2018年)

評価

A: オリジナルな見解が盛り込まれている。 B: 一通り書けている。 C: 不十分な分量・内容。